

# 「第22回 山鹿市防災のつどい」に出展しました。

## 「防災」に着目した電気の安全」について、広報活動を実施!!

熊本北事業所 太田 茂秀

### 「山鹿市防災のつどい」開催の主旨について

災害の恐ろしさをまざまざと知らされた「阪神・淡路大震災」。その記憶を風化させないため、また、いつ災害が発生しても住民同士で支え合える地域にという思いのもと、「日赤防災ボランティア山鹿あいの会」が1997年に初めて開催し、今年で22回目となります。現在は社会福祉法人山鹿市社会福祉協議会の主催により、震災発生日の1月17日に、毎年開催されています。

### 「山鹿市防災のつどい」の概要について

多くの市民の皆さまをはじめ、「防災」に対する教育の一環として山鹿市内の高校、近隣の小中学校、幼稚園等、500人を超える方が見学に訪れる山鹿市の一大イベントです。ボランティアにて参加している、地域の団体や企業等、全11団体が炊き出し訓練や「防災」に関するグッズの紹介、各種体験コーナー等工夫を凝らしたブースを出展します。会場の設営や撤去等も全て協力団体が実施する手作りのイベントとなっています。



### 保安協会の展示ブースとその様子



感電体験、感震ブレーカー実験は若年層に大人気!! [体験者:80人]

熊本北事業所より3名が対応。午前10時～12時半までの2時間半でしたが、多くの方に協会ブースを訪れていただきました。

感電体験や感震ブレーカー実験は、ゲーム感覚で若年層に大人気。行列ができる盛況ぶりでした。

一方、模擬分電盤による各種スイッチの役割、漏電遮断器が切れた時の対処方法の説明については、年配層・主婦層が関心を持っており、熱心に説明を聞いていただきました。



出展ブースの様子



模擬分電盤説明の様子。[体験者:70人]

今回、せっかくの機会でしたので、防災の観点から新たに作成したチラシ「ご家庭にある電気の”元”「分電盤」について理解し、非常時に備えましょう!!」70枚を全て配布、各種スイッチの役割はもちろん、停電時の対応方法、地震発生時のスイッチOFF、電気に関する緊急連絡先を記載する欄等を設けており、広く一般のお客さまに電気安全を周知することが出来ました。